

会の名称が令和2年4月1日から『樋爪館懇話会』になりました。

— 岩手県立博物館テーマ展『比爪—もう一つの平泉—』パンフレット — 20頁

3 比爪—奥州藤原氏第二の拠点— ③ 外縁遺跡

《内村遺跡〔盛岡市下飯岡石橋〕(1)》

昭和9年に盛岡市下飯岡石橋の内村遺跡で、農作業中に出土したとされる完形の常滑産陶器の甕です。口縁部の一部が欠損していますが、他に欠損部はなく、発見時まで、

土中に埋納された状態で保持されていたと推測されます。他に2個の壺も出土したと伝えられていますが、現存していません。



内村遺跡常滑産壺（盛岡市遺跡の学び館蔵）

内村遺跡は平坦地に立地しており、一般的な経塚の造成にはあまり類のない立地です。しかし、一般的な経塚の立地も必ずしも一様ではなく、平坦地に造成される経塚も皆無ではありません。内村遺跡が寺院の境内であった可能性や、あるいは古戦場など施主に由縁がある土地であったため、経塚が造成された可能性も想定されます。大型の甕は、経塚に埋納される場合、直接に経文を入れる容器ではなく、

経を入れた経筒や小型の壺を納める「外容器」としての用途が想定されます。内村遺跡は比爪館から直線で15.0kmの距離に位置します。

《《《 4月～6月諸行事の“中止”等のお知らせ 》》》》

岩手県内で新型コロナウイルスの感染者が発生したときは、諸行事の中止を決断しなければならぬと考えていましたが、幸い発生していないことから4月9日の運営委員会を開催しました。協議のなかで全国的な感染拡大が進む情勢に鑑み、令和2年度の事業計画案は、4月～6月の事業を中止・延期する修正を加えて、定期総会に提案することを全員賛成で決定しました。

このような状況下で開催した4月12日の定期総会には、20人の会員が出席していただき提出議案のすべてが承認されました。

その後の諸行事・補正予算については、7月9日開催予定の第2回運営委員会で、そのときの感染拡大状況などを勘案し協議する予定です。

定期総会で決定した4月～6月の中止・延期等を行う諸事業は次のとおりです。

- 月例発表会 4月15日、5月20日は中止。6月以降については、会長・副会長が協議・決定し、5月25日発行の会報「ひづめだて」で周知。
- 案内所開設 4月中・下旬の五郎沼桜まつり協賛の案内所開設は中止。7月中・下旬に予定の古代ハスまつりについては、第2回運営委員会で協議。
- 定期講演会 6月7日の定期講演会は中止。12月6日に第23回定期講演会を開催。

国が、全国47都道府県を対象とする緊急事態宣言を発令しました。現在、岩手県では全国で唯一感染者が発生していませんが、これから先の見通しは、まだまだ厳しいものがあります。一日でも早く通常の暮らしが戻るよう、お互いに感染防止に努めましょう。

※ ※ ※ 比爪館跡周辺遺跡の発掘調査 No.21 ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

【南日詰大銀Ⅱ遺跡—第1次～第3次発掘調査報告—】(9) <平成31年2月 紫波町教育委員会>

Ⅲ 南日詰大銀Ⅱ遺跡 第2次調査

2 調査の成果

- (1) 検出遺構 =省略=
- (2) 出土遺物 45頁

今回の調査で、かわらけ、国産陶器、中国産陶磁器、鉄製品、古銭、その他を中コンテナで30箱出土した。その内実測可能な13点を図化し掲載した。

1) かわらけ

SA-01 塀跡から2点。134・135 はロクロ成形で、口径が6.1cm～6.6cm。 SA-02 塀跡から2点。 136・137 はロクロ成形で、口径が7.3cm～7.4cm。 柱穴から2点。 138 はロクロ成形で、口径が8.4cm。 139 は手づくねで、口径が11.2cm。 検出面から3点。 140・141 はロクロ成形で、口径が6.3cm～7.3cm。 142 は手づくねで、口径が14.2cm。

2) 国産陶器

SX-01 不明遺構から1点。143 は常滑産大甕の体部で表面に押印が施されている。

3) 中国産磁器

SX-01 不明遺構から1点。 144 は青磁碗の高台部である。 SX-02 不明遺構から1点。 145 は白磁四耳壺の口縁部である。

4) 古銭

SX-02 不明遺構から1点。146 は明銭で永楽通寶(1408)である。 また書体は、真書体である。

***** 雑 感 ***** 高橋敬明 *****

国内外に新型コロナウイルスの感染者が拡大する中で開催した定期総会は、会場を講堂に移し、机は使わず、椅子を前後左右2m離して設置する、いわゆる「三蜜（密閉・密集、密接）」を避ける方式で設営。いつもとは違う雰囲気の会場で行われました。

出席された皆様ほんとうにありがとうございました。去年1年、10周年記念事業で皆が力を合わせて頑張ったご褒美がコロナかと嘆くことなく、天が与えた恵みと受け止めたいと思っています。すなわち、これまで無我夢中で歩み続けてきた過去の10年を顧み、新しい10年のあり方を静かに落ち着いて探求する“とき”を得たと考えたいのです。

会員が顔を合わせ意見交換する機会が、減少する期間が続くことにはなりますが、この会報に所感を載せたり話題提供することができます。アンケートで皆の希望を確めることも、ありませんでしょうか。大いに活用してください。なにしろ会報の増頁は、他の事業が縮小することから補正予算の財源は豊富。これぞ天の恵み！と言わざるをして何をかや言わん。



三蜜を避けて設営した令和2年度定期総会会場で賛成の拍手をする出席者